

コリント人への手紙第28章 「与える熱意」

1A 聖徒の交わり 1-7

1B 喜びにあふれた献金 1-5

2B 始めたわざの成し遂げ 6-7

2A 愛の真価を試す機会 8-15

1B 神の恵みの模範 8-9

2B 平等になる分かち合い 10-15

3A 献金を受け取る人々 16-24

1B パウロと同じ心のテスト 16-17

2B 諸教会に任命された兄弟たち 18-22

3B コリントの人たちの愛の証拠 23-24

本文

コリント人への手紙第28章です。パウロは、7章で、マケドニアでテトスに会えて、非常に慰められ、また、コリントの人たちがパウロの厳しい手紙に正しく応答したことを聞いて、大変喜びました。そこで彼は、コリントの人たちに、ぜひしてほしいと願っていることを書きます。それは、エルサレムとユダヤにいる信者たちのために、異邦人主体の教会が支援金を集めることです。

聖霊が弟子たちの間に初めに降り、教会が生まれましたが、初めに彼らがしたことは財産の共有でした。それは、兄弟愛による分け合うということで良いものでありましたが、聖書には、教会が財産の共産制にせよ、ということは書かれていません。そのためでしょうか、飢饉などが起こると、もろにその影響を受けて、貧しくなっていました。そこでパウロの思いには、いつも一つの熱意がありました。それは、異邦人が主体の教会が貧しいユダヤ人の兄弟を助けることです。アンティオキアの教会が建てられて、しばらくすると、大飢饉が起こりました。その時に、「使 11:29 弟子たちは、それぞれの力に応じて、ユダヤに住んでいる兄弟たちに救援の物を送ることに決めた。」とあり、パウロとバルナバが遣わされます。異邦人主体の教会が生まれて間もない時から、すでにパウロたちは、貧しいユダヤ人のための働きを行っていました。

そこには、彼の情熱がありました。それは、キリストにあってユダヤ人も異邦人も一つであるという真理を、愛をもって実践するということです。ユダヤ人にとって、律法はとても大切なものであり、異邦人は割礼を受けて、ユダヤ教の改宗者になって初めて救われるという思いが強くありました。それで、異邦人がそのまま、信じるだけで救われるという恵みについては、なかなか受け入れられませんでした。キリストが私たちの平和であり、二つを一つにする方なのに、それが、なかなか現実にはそうになっていなかったのです。それで、パウロは、愛による結びつきで、両者がキリ

ストにあって一つであることを示すことのできる、とても良い機会だとみなしたのでした。

パウロは、ローマ人への手紙をコリントから書いていましたが、そこで、異邦人の信者たちがユダヤ人たちに借りがあることを語っています。「ロマ 15:26-27 それは、マケドニアとアカイアの人々が、エルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために、喜んで援助をすることにしたからです。27 彼らは喜んでそうすることにしたのですが、聖徒たちに対してそうする義務もあります。異邦人は彼らの霊的なものにあずかったのですから、物質的なもので彼らに奉仕すべきです。」ここでの、「マケドニアとアカイアの人々」というのが、ここです。アカイアの主要な町がコリントです。マケドニアの人々も、そしてコリントの人々も、喜んで惜しみなく献げました。そして、私たちが読んでいくのは、コリントの人たちがどのようにして喜んで献げっていったのかのいきさつを見ていくこととなります。

お金を献げることについてですから、そこには、微妙な問題も当然つきまといます。お金を愛することは諸悪の根源であることを、パウロは第一テモテで話していますが、偽教師はうまくこしらえた話で人々を食い物にすることをペテロも、第二の手紙で話しています(2:3)。パウロは、第一コリントで、それゆえ、自分自身は自分で働いて、福音宣教者としての報酬をコリントの人たちには求めなかったことも話しています。しかし、それでも献金することは、特に困っている兄弟たちに献金することは、大きな喜びなのです。みなさんも、今回、ウクライナの困っている人々のために、現場で働いている、カルバリーチャペルの人々のための支援金をくださいました。ウクライナだけではないですが、このような献金がいかに神の恵みに満ちているかを、この章で学ぶことができます。

1A 聖徒の交わり 1-7

1B 喜びにあふれた献金 1-5

¹さて、兄弟たち。私たちは、マケドニアの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思います。

マケドニアに、パウロは今、います。使徒の働きには、ピリピ、テサロニケ、ベレアにおけるパウロたちの働きが記録されています。今のギリシアの北部地域です。そこで、主がとてつもない恵みを注いでくださったことを、コリントの人たちに分かち合います。

² 彼らの満ちあふれる喜びと極度の貧しさは、苦しみにによる激しい試練の中にあってもあふれ出て、惜しみなく施す富となりました。

彼らがなぜ極度に貧しいのか？と言いますと、「苦しみにによる激しい試練」があるのと深く関わります。パウロたちが、テサロニケで福音を語った時、妬みにかられたユダヤ人たちが暴動を起こして町を騒がせ、信者であるヤソンの家の者たちを引っ張り出して、町の役人たちに引っ張り出して

います。パウロたちがベレヤにいるときも、このユダヤ人たちは、しつこく町の群集を煽り立てました。そして、テサロニケの人たちは、同胞の民からも苦しみを受けていることを、パウロが第一テサロニケ 2 章で話しています(14 節)。同じく、ピリピ人への手紙でも、「あなたがたがキリストのために受けた恵みは、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことでもあるからです。」とあります(1:29)。彼らが受ける迫害は、物理的な危害だけでなく、職を失うであるとか、財産を奪われるであるとか、そういった経済的な危害もあったことでしょう。それで、極度の貧しさを経験しているのです。

しかし、その中にあっても、彼らは喜びに満ちあふれていました。「I テサ 1 章 1:6 あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちに、そして主に倣う者になりました。」聖霊による喜びがあって、それでみことばを受け入れていました。みことばを受け入れていたので、主イエスに倣っていきたいという情熱を持っていました。そのような、満ちあふれる喜びの中で、パウロたちから、貧しいユダヤの兄弟たちに献金をする働きのことを聞いたのです。そうしたら、次のようになったのです。

³ 私は証します。彼らは自ら進んで、力に応じて、また力以上に献げ、⁴ 聖徒たちを支える奉仕の恵みにあずかりたいと、大変な熱意をもって私たちに懇願しました。

すごいですね、自ら進んで、力以上に献げました。つまり、生活費にかなり響くような形で献げたのです。それが2節にある、「惜しみなく施す富」です。その金額ではないのです、やもめが神殿の献金箱にレプタ銅貨を二枚投げ入れた話を思い出してください。イエス様は、「まことに、あなたがたに言います。この貧しいやもめは、だれよりも多くを投げ入れました。あの人たちはみな、有り余る中から献金として投げ入れたのに、この人は乏しい中から、持っていた生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから。」とされています(ルカ 21:3)。

その理由が、「聖徒たちを支える奉仕の恵みにあずかりたい」というものです。ここにある「あずかる」は、コイノニア、交わりのことです。キリストが平和になってくださり、ユダヤ人と異邦人を一つにするという恵みをくださいました。キリストが、神と一人ひとり一つにする恵みを与えられただけでなく、キリストにあって私たちが一つになるという恵みもくださいました。そのコイノニアに入りたいと強く願ったのです。このような、神のすばらしい、壮大なお働きの中に、私たちもあずかりたいと願いました。

マケドニアの人々は良く分かっていました。神の恵みは、受け入れて、また押し流すことによって初めて、新たに神の恵みが注がれるということです。与えることによって受け取り、ますます満ちあふれるものなのです。私たち夫婦は海外宣教を行いました、そこで深く知ったのは、自分がその人たちに、彼らにないものを与えるのだ、ということではないことです。神が世界を愛され、それ

で御子を遣わされたのだという、すばらしい恵みがあって、その恵みにあずかるということなのです。主の、惜しみなく与える愛が、自分たちがそこに行き、福音のために自分自身を献げることによって、初めてそのすばらしい恵みを知るのです。が入って来るということを知っていました。

そして、「大変な熱意をもって」とありますね。これが7章から続いている主題です。7章においては、罪を犯している者について、正しく対応する時に、「神のみこころに添って悲しむこと、そのことが、あなたがたに、どれほどの熱心をもたらしたことでしょう。」とありました(11節)。知識に基づかない熱心はいけません、知識に基づく熱心は、神と心を一つにします。

⁵そして、私たちの期待以上に、神のみこころにしたがって、まず自分自身を主に献げ、私たちにも委ねてくれました。

「期待以上に」とありますから、パウロたちは、彼らの貧しい状況を見て、献げることができなくとも、仕方がないと思っていたのでしょう。彼らのほうが施しを受けなければいけないのに、と感じていたかもしれません。それが、そうではありませんでした。この時だけでなく、ピリピ人への手紙を見ていると、パウロたちの宣教の働きのために、二度も、物を贈ってきてくれていることを書いています。それでパウロは言っています、「ピリ 4:17 私は贈り物を求めているではありません。私が求めているのは、あなたがたの霊的な口座に加えられていく実なのです。」

そして、「まず自分自身を主に献げ」とありますね。献金は、あくまでも献身の現れの一部です。自分自身を主に献げます。その中で一部を、つまり献金を使徒たちに委ねたのです。だからこそ、自分たちの生活費にかなり影響が出るほどの犠牲であっても、献げました。

2B 始めたわざの成し遂げ 6-7

⁶それで私たちは、テスがこの恵みのわざをあなたがたの間で始めたからには、それを成し遂げるようにと、彼に勧めました。

マケドニアの人々で始まった、この恵みのわざは、実は、コリントの人々の間にも始まっていました。コリント人への第一の手紙で、すでに、パウロはこのことについて言及しています。「16:1 さて、聖徒たちのための献金については、ガラテヤの諸教会に命じたとおりに、あなたがたも行いなさい。」と言っています。けれども、その後、いろいろな問題が起こっていたので、中断していました。それで、「成し遂げるように」と勧めています。その意欲はあったのですが、頓挫していたのです。

⁷あなたがたはすべてのことに、すなわち、信仰にも、ことばにも、知識にも、あらゆる熱心にも、私たちからあなたがたが受けた愛にもあふれています。そのように、この恵みのわざにもあふれるようになってください。

コリント第一の冒頭の挨拶のところで、パウロは、「I コリ 1:5 あなたがたはすべての点で、あらゆることばとあらゆる知識において、キリストにあって豊かな者とされました。」信仰、ことば、知識、熱心など、問題がいろいろありこそすれ、パウロが、一年半、腰を据えてみことばを教えて続けた実は結ばれていました。そして、パウロたちから多くの愛を受けていました。だから、「この恵みのわざにもあふれるようになってください。」と言っています。私たちもこのように、しっかりと御言葉を学び、知識があります。信仰も育てられていくでしょう。愛もあります。そこで、具体的な愛の行いを付け加えることで、こうした恵みにあずかることができる、ということを教えています。

2A 愛の真価を試す機会 8-15

1B 神の恵みの模範 8-9

⁸ 私は命令として言っているではありません。ただ、他の人々の熱心さを伝えることで、あなたがたの愛が本物であることを確かめようとしているのです。

愛があっても、それが真実なものかどうかは、具体的な恵みのわざに関わることによって明らかにされます。真実な行いの中に、愛が確かなものとされます。私たちの周りで、いろいろなことが起こる時に、その時にこそ、神は、私たちに愛が本物であるかどうか、確かめようとしておられるのだと思います。

⁹ あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。

マケドニアの人々の熱心は、見倣うべきものですが、それ以上に、私たちの主イエス・キリストご自身が、私たちの模範です。主ご自身の恵みにあずかった者は、この方に倣いたいと願うはずで、それによって、その恵みが恵みとして自分の内で確かなものとなっていきます。午前礼拝の説教で、ここの箇所からお話ししましたのでお聞きください。主は、父なる神の栄光の富を持っておられたのに、地上に遣わされた貧しくなられました。それは、私たちのためであり、私たちがキリストにあって富む者になるためです。このように、主は与えられる方です。私たちが、与えることによって、その恵みを知ることになります。

2B 平等になる分かち合い 10-15

¹⁰ この献金のことについて、私の意見を述べましょう。それがあなたがたの益になるからです。あなたがたは献金を実行することだけでなく、その志を持つことも、昨年からはじめて他に先んじていました。¹¹ ですから今、それをやり遂げなさい。喜んでしようと思ったとおりに、持っているものでやり遂げてください。

先ほど話したように、すでに彼らは献金を予め行う志を持っていました。それが中断しているだけなので、やり遂げなさいと意見しています。ハガイ書において、神殿を建てよ、という神の命令が書かれているところがあります。帰還した民が神殿を再建しているところ、阻止行動が激しく、中断を余儀なくされました。けれども、それを良いことに、自分の生活を建てることを優先していったのです。けれども、金儲けしようとしても空回りすることが多く、主は、それは彼らに対する注意喚起であることを教えます。主の家を建てることを再開しなさいという、神の命令です。彼らは主を恐れて、再開しました。エズラ書には、そのことにも文句を言っている人々がいたけれども、「しかし、ユダヤ人たちの長老たちの上には彼らの神の目が注がれていたので、..彼らの工事を中止させることができなかった。」とあります(5:5)。

¹²喜んでする思いがあるなら、持っていないものに応じてではなく、持っているものに応じて受け入れられるのです。

パウロは今、持っていないものを無理やり捻出して献げなさいと言っているのではなく、持っているところに応じて献げることを勧めています。熱意と熱心がよみがえってきたのだから、喜びをもって、そのことを行いなさいと勧めています。

¹³私は、他の人々には樂をさせ、あなたがたには苦勞をさせようとしているのではなく、むしろ平等になるように図っています。

コリントの人たちが、「私たちに金銭の余裕があるから、そう言っているのか？」と誤解されないように説明しています。パウロは、諸教会全体を監督しています。それで、ユダヤにいる兄弟たちが、確かに事欠いていることを知っていたのです。キリストのからだは全体として一つになっており、そこで不平等が起こっていたのです。コリントの教会は、自分たちの教会しか見ていないという問題がありました。それを正しています。

¹⁴今あなたがたのゆとりが彼らの不足を補うことは、いずれ彼らのゆとりがあなたがたの不足を補うことになり、そのようにして平等になるのです。¹⁵「たくさん集めた人にも余ることはなく、少しだけ集めた人にも足りないことはなかった」と書いてあるとおりです。

パウロは、出エジプト記の、16章18節のことばを引用しています。イスラエル人らが天からのマナを取り集めているとき、一人当たり一オメルずつ集めるようにと命じられました。けれども、それよりも多く集まるものがいたので、他の人は一オメルよりも少なく集めました。ところが、量ってみるとすべての人が一オメルであった、という話しです。これは、奇跡としてそのように起こっていたことですが、今、教会においては、互いに分け与え、足りないところを補うことによって、神の奇跡を体現していく形で実現していきます。まさに私たち自身に与えられている、御霊の愛が、かつてマナ

が一オメルずつになって平等になっていったように、私たちが献げることによってそれが実現していく、ということです。

3A 献金を受け取る人々 16-24

1B パウロと同じ心のテス 16-17

¹⁶ 神に感謝します。私があなたがたのことを思っているのと同じ熱心を、神はテスの心にも与えてくださいました。¹⁷ 彼は私の勧めを受け入れ、大変な熱意をもって、自分から進んであなたがたのところに行こうとしています。

パウロは、自分自身がコリントに行く前に、テスを遣わして、テスによってこの献金を集めるようにしました。幸いにも、いや、神に感謝します、とパウロは言っていますが、テスはパウロに言われたから行くというのではなく、パウロと同じ熱心を神がテスにも与えておられました。この献金プロジェクトに、大変な熱意を持っていて、それで自ら進んで行こうとしています。

2B 諸教会に任命された兄弟たち 18-22

¹⁸ 私たちはテスと一緒に一人の兄弟を送ります。この人は福音の働きによって、すべての教会で称賛されています。¹⁹ そればかりでなく、彼は、この恵みのわざに携わる私たちの同伴者になるように、諸教会の任命を受けています。私たちがそのわざに、主ご自身の栄光と私たちの熱意を現すために仕えています。

今回は、テスだけでないようにしています。もう一人の兄弟を送ります。敢えて名前を出していませんが、慎重に動いているのでしょう。彼は、その福音の働きですべての教会で称賛されている、とあります。献金のことについて、会計に詳しい人ということ以上に、霊的なことに従事している人でなければいけないですね。モーセが、自分の代わりに人々を裁く人々を立てる時、「民全体の中から、神を恐れる、力のある人たち、不正の利を憎む誠実な人たちを見つけ」とあります（出エジプト 18:21）。使徒たちが七人の人を執事に任命した時も、「御霊と知恵に満ちた、評判の良い人たち」という資格でした（使徒 6:3）。福音宣教において、情熱を持っており、福音の中に生きていくとしている人々が、お金のことも取り扱っていくべきです。

しかも、福音の働きで称賛を受けているだけでなく、この献金プロジェクトにおいて、諸教会の任命を受けていました。このことが、しっかりと主ご自身の栄光を現すものであることを示すようにしていたのです。キリストにあって、ユダヤ人と異邦人が一つになるということで、主ご自身の栄光を現すのです。

²⁰ 私たちは、自分たちが携わっているこの惜しみないわざについて、だれからも非難されることなく、主の御前だけでなく、人々の前でも正しくあるように心がけているので

す。

お金のことを取り扱うので、しっかりと明朗なものにするべく、テトス以外の人も連れて行くようにしています。主の御前ということ、その良心においてもそうですが、人々の前でも公正明大になっている必要があります。私たちは、カルバリーチャペル・コスタメサから小切手で支援金を受け取っていますが、小切手には必ず、二人の署名があります。会計担当の人が必ず、複数名になっているようにしているのです。会計のおける鉄則ですね。

²² また、彼らと一緒にもう一人、私たちの兄弟を送ります。この兄弟が多くのことについて熱心であることを、私たちは何度も認めることができました。彼は今、あなたがたに深い信頼を寄せ、ますます熱心になっています。

さらにもう一人、兄弟を送ります。彼は元々、熱心な人ですが、コリントの人たちについても、ますます熱心になっているとのことでした。

3B コリントの人たちの愛の証拠 23-24

²³ テトスについて言えば、彼は私の仲間であり、あなたがたのために働く同労者です。私たちの兄弟たちについて言えば、彼らは諸教会の使者であり、キリストの栄光です。

改めてテトスのこと、二人の兄弟たちのことを書いています。テトスについて言えば、パウロの仲間です。仲間という言葉、使徒の働きに数多く出てきます。例えば、ペテロとヨハネがサンヘドリンで尋問をされてからのことですが、「4:23 さて、釈放された二人は仲間のところに行き、祭司長たちや長老たちが彼らに言ったことを残らず報告した。」とあります。私たちに、健全な仲間意識が出来ているか？確かめる必要があるでしょう。そして、コリントの教会の人々にとっては、「同労者」であると言っています。共に、コリントの教会の建て上げを担っているからです。

そして、二人の兄弟について、第一に、「諸教会の使者」とまで言っています。これは、この献金の働きが、すべての教会によるものであることを示しています。コリントの教会の問題は、自分たちはパウロにつく、私はアポロにつく、私はケパにつく、私はキリストに、という派閥意識であり、自分たちの教会しか見えていなかったことでした。教会全体でキリストのからだであることを教えている言葉です。第二に、「キリストの栄光」とまで言っています。キリストのからだとして、一つになっていることを彼らは代表しています。一つになっているところに、キリストの栄光が現れるのです。パウロは、もしかしたら、イエス様が捕らえられる前に父なる神に祈られたことを思い出しているのかもしれませんが。「ヨハ 17:22 またわたしは、あなたが下さった栄光を彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。」

²⁴ ですから、あなたがたの愛の証拠と、あなたがたを私たちが誇りとしている理由を、彼らに対して、諸教会の前に示してほしいのです。

これまで言ってきたことのまとめですね。愛が本当であることを確かめること。そして、パウロが彼らを信頼して、誇りとしていること(7章に書いていました)。これを、諸教会の使者として来ている人々に、示してほしいとお願いしています。

次の章、9章も献げることについて見ていきます。9章は、献げることの原則みたいなもの、動機について見ていきます。ここ8章は、聖徒たちのための奉仕、つまり困っている状況に助けに行くことを通して、神の恵みにあずかっていくという喜びについて見ました。自分自身を献げることによって、初めて味わえる神の恵みがあります。このようにして学んで、知識を増やし、信仰を増し加えることだけでなく、具体的に愛の行いに関わり、それで、一つになっていることの喜びを共にしましょう。